

長堀の被災状況総括

長堀の被災状況調査として、不陸・傾斜の測定を行った。不陸測定内容は長堀の水切りレベルと礎石天端レベルの2種類を対象とし、傾斜測定内容は礎石(転び)と堀本体の傾斜を調査した。堀の不陸と傾斜は非倒壊範囲のうち測定可能な範囲に限られ、控石柱ここではNo.26~68がこれに該当する。

不陸測定結果からは、控石柱No.17, 24, 53辺りにおいて最大で120mmを超える不陸を生じていることがわかり、また、堀水切りレベルと礎石天端レベルにおいてほぼ同様の沈下傾向が見られることから堀本体と礎石は同様に沈下していることがわかる。傾斜測定結果からは、礎石の傾斜は測定箇所全体の約97%が城内側(内側)へ傾斜しており、堀本体の傾斜の傾向と一致する。

一方で長堀はH27.8の台風による控石柱折損等の被害も受けており(主に西側)、今回の測定結果は必ずしも地震被害のみによるものではないと考えられる。



01 倒壊範囲(H28.12撮影)



02 倒壊範囲 内側(H28.12撮影)



03 非倒壊範囲(H28.12撮影)



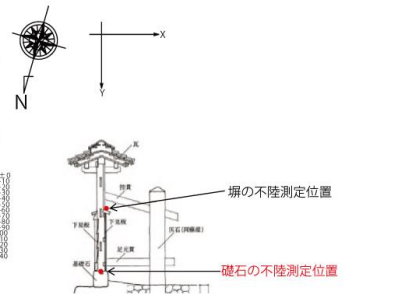
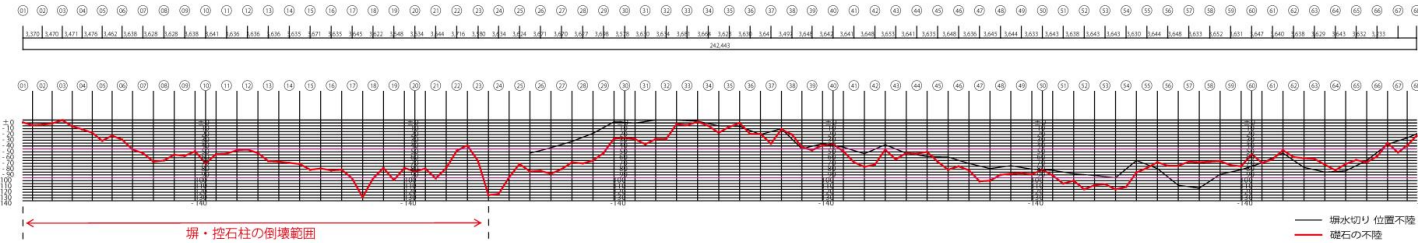
04 倒壊範囲(H28.12撮影)



05 控石柱No. 24以降(H28.12撮影)

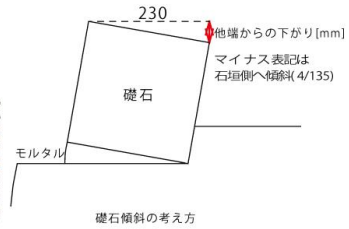
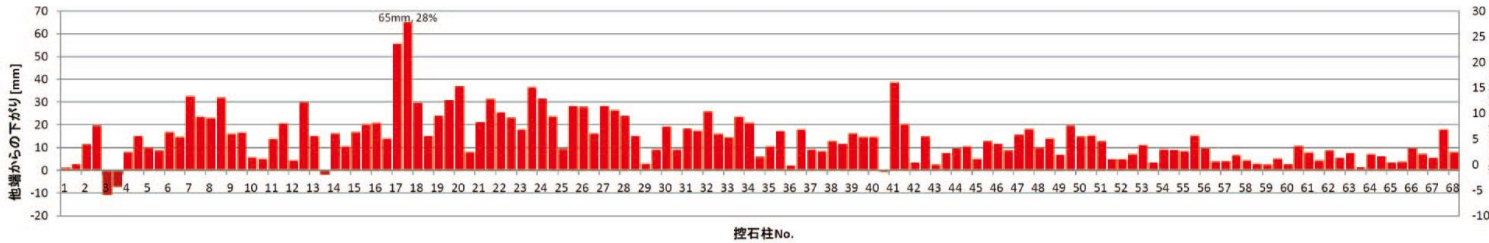
○不陸測定結果

— 堀水切り 位置不陸
— 礎石の不陸

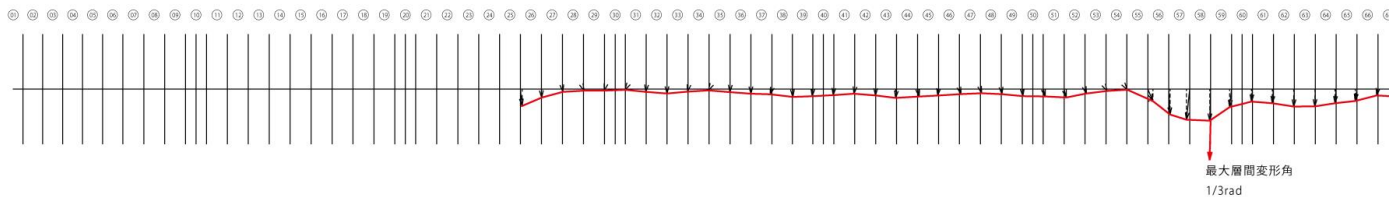


○傾斜測定結果

・ 礎石



・ 堀本体



06 堀・控石柱最傾斜箇所(H28.12撮影,H27台風被害箇所)

